

事業成果報告書

1. 個人または団体名(団体の場合は代表者名も記入)
林 愛美
2. 研究または活動のテーマ(課題名)
儀礼的暴力をめぐる女性たちの新たな選択—東アフリカ・ケニアのマサイ社会における女性性器切除実践の変容に関するジェンダー人類学的研究
3. 助成額
470,000 円
4. 実施期間
2014 年 8 月 ~ 2015 年 3 月
5. 実施状況
<p>【実施状況】ケニアに暮らす牧畜民マサイの社会では、成女儀礼(女性の成人儀礼)の一環として女性性器切除(Female Genital Mutilation、以下 FGM)が行われてきたが、その施術は心身に深刻な弊害を与えることから、現在ケニアの法律で禁止されており、また NGO による FGM 廃絶運動が展開されている。本事業では、FGM を取り巻く状況が大きく変化する中、マサイの人々はこの慣習とどのように向き合っているのかを明らかにするため、マサイの居住地域における FGM の実態調査を主要な目的とした。そのため、ケニア・リフトヴァレー州ナロク県のマサイ居住地域において 2014 年 8 月~9 月および 2015 年 2 月~3 月の 2 度にわたってフィールドワークを行った。</p> <p>①2014 年 8 月~9 月 ケニアでの現地調査:マサイの集落において女性に対するライフヒストリー調査/FGM 廃絶運動を展開する地元 NGO や国際 NGO での調査を実施</p> <p>②2014 年 11 月 1 日 日本アフリカ学会関西支部 2014 年度例会・若手研究会にて口頭発表(神戸大学)</p> <p>③2014 年 11 月 8 日 日本平和学会 2014 年度秋期研究集会にて口頭発表(鹿児島大学)</p> <p>④2014 年 12 月 20 日 日本平和学会関西地区研究会 2014 年度第 3 回例会にて口頭発表(佛教大学)</p> <p>⑤2015 年 2 月~3 月 ケニアでの現地調査:調査協力者の親族に対する聞き取り、FGM 施術師への聞き取り調査</p> <p>⑥2015 年 3 月 25 日(発行)大阪大学スワヒリ語・アフリカ文化研究会会報『JUA 第 7 号』にエッセイ「他者の痛みを記述することはいかにして可能か—ポストコロニアル・フェミニズムの実践的主体として」(pp.33-37)が掲載</p> <p>⑦2015 年 3 月 31(発行)大阪大学言語文化学会誌『Ex Oriente 第 22 号』に論文「女性性器切除をめぐる研究動向と現代の課題—ケニアのマサイ社会における FGM 実践の調査から」(pp.167-192)が掲載</p> <p>【実施内容】当初は、FGM 実践の変容について明らかにするため、様々な世代のマサイ女性計 30 名に対し、FGM 経験についての聞き取り調査を行う予定であった。しかし、2014 年の調査過程で、FGM という身体経験を各自の人生経験の中に位置づける必要性を感じたため、インタビュー数を 19 名に減らしてライフヒストリー調査を取り入れた。また、一人の FGM 経験について家族や隣人等に対しても聞き取り調査を行った。そのため、目標のインタビュー件数は達成できなかったが、調査協力者の自宅を何度も訪ね、より長い時間を一緒に過ごすことで信頼関係を構築できたと感じる。また、調査の過程で FGM 実践をその他の社会制度、とりわけジェンダー状況との関係性において分析する必要性を感じ、2015 年からはマサイ女性の生活全般についての調査も開始した。調査村ではマサイ女性主体の互助講など集会の場を訪ね、また葬儀などにも出入りするなど日常と非日常の双方の場に密着し、マ</p>

サイ女性の世界観を理解するよう努めた。 ※本助成のおかげで充実した調査ができました。心より感謝申し上げます。

6. 事業成果と自己評価

【事業成果】調査村のジェンダー状況と儀礼の変容 人口約 1400 名の調査村では、定住化が進んで生業は農牧に移行しており、現金経済の流入が著しく、先行研究における社会状況とは大きく異なる。女性でも初等教育を受ける人が増えており、村に暮らしながら都市部での賃金労働に従事する女性もいる。教育を受けた女性の中には、識字教育を行ったり互助講を組織したりして、村の教育レベルや女性の地位向上に努めている人もいる。マサイ社会では、女性は財産を相続、所有することができないために社会的地位が低いと言われてきたが、社会変容と女性たちの努力によって近年は村での女性の役割や政治的発言力は変化していると考えられる。また就学率上昇に伴って成女儀礼の簡略化も見られ、FGM 実践にも影響していることが考えられる。さらなる調査が必要ではあるが、**先行研究と比較して調査村では女性の役割やライフコースの有り方が変化しており、ジェンダー変容という点から成女儀礼の内実が変化し、FGM 実践に影響を与えている可能性がある。**

NGO による草の根的 FGM 変革運動 調査村の周辺では、マサイ女性が立ち上げた地元 NGO やマサイ人スタッフが従事する国際 NGO、さらにケニアのフェミニスト組織などが相互に連携しながら FGM 廃絶運動を展開している。NGO の活動は、FGM を拒絶した少女の保護や学校および教会と連携しての FGM 啓発教育、また FGM が存続する背景となっているジェンダー状況の改革など多岐に渡る。こうした活動によって、**マサイの人々が新聞やラジオを通して FGM についての多面的な情報に触れる機会が増えていると言える。**

FGM 実践の変容 FGM 経験の聞き取り調査から、施術方法や施術道具が過去 50 年間で変化していることが明らかになった。**1990 年代以降、切除はより軽度になり、一人につき一つの医療用メスや手袋、麻酔薬が導入されるなど衛生面での大幅な改善が見られる。**こうした変化は、FGM 廃絶運動における啓発活動の効果と考えられるが、それを受け入れ、実践するにあたっては、居住形態や衛生観念が変化していることも影響している可能性がある。

FGM 禁止法 **2011 年に年齢制限を設けない FGM 禁止法が成立した後、人々は逮捕を恐れて FGM の完了を周知する慣習を手放しつつある。**儀礼において監視制度を果たしてきた慣習が無くなれば、FGM を手放しやすい状況になることが予想される。また、調査村では FGM 禁止法や弊害に関する知識が共有され、FGM を受けないことに対して肯定的な雰囲気ができつつある。ただし、現段階で娘に FGM を受けさせない家庭はほとんど見られない。

女性たちの FGM 観 国家を挙げての反 FGM 政策や草の根的な NGO 活動の影響によって、マサイの人々は FGM を取り巻く様々な文脈に触れる機会を得ており、FGM 経験を語る際に FGM 禁止法や弊害に言及する女性も多かった。一方、施術の痛みという身体経験を共有することによってコミュニティの成員となることに意味を見出す人もいるため、FGM が女性性の確立と密接に関わっている側面も否定はできない。そのため、**FGM をめぐる価値規範の多元化に伴い、女性の FGM 観は多様化、もしくは個別化していると言える。**また、**マサイの少女たちが FGM 禁止法や反 FGM 運動を知らずに通過儀礼という価値規範だけで FGM を捉えるケースは少なく、今後の研究では国家の政策や NGO 活動が民族社会の慣習に与える影響が一層注目される。**ただし、FGM は成女儀礼の一環であるため、**成女儀礼自体を民族社会における女性の社会的地位や女性性の有り方との関係において分析することも重要な課題である。**社会変容との関連における儀礼の研究については、長期的な課題としたい。

【自己評価】目標としたインタビュー人数は達成できなかったが、マサイ女性の日常/非日常の生活全般に密着し、調査村におけるジェンダーのあり方全体を把握するよう努めたことで、FGM の変化について様々な側面から分析することが可能となった。今後はさらに長期的で詳細な現地調査を行い、研究を深化させたい。